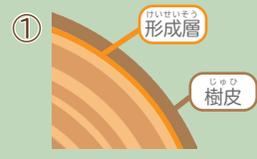
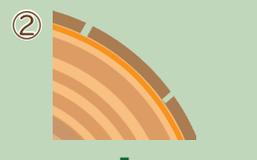


木の“はだ”はどうしてはがれるの？

木の“はだ”のことを「樹皮」と言います。「樹皮」は木を太く成長させる形成層の外側にあるはだの部分です。虫や菌類の侵入から幹を守ります。



① 形成層が木を太く成長させます。



② 木が太くなると、樹皮は割れ始めます。



③ 割れた樹皮が枯れると、内側にコルク層ができます。コルク層は樹皮の代わりに木を守ります。

枯れた樹皮は、やがて木が太くなったり、乾燥したりするとはがれ落ちます。

木の断面図 (1/4)

木の“はだ” 観察スポット

点線で囲んだ場所は、内面で紹介している木の“はだ”が近くで観察できる場所です。



こもれびの丘
クヌギやコナラなどの木が植えられています。里山の植物を守っている場所です。柵の外から観察しましょう。

ディスクゴルフコース～トンボの湿地
ヒノキやアカマツなどの針葉樹が多く植えられています。

花木園
アキニレやシラカシなどの木が植えてあります。樹名板がついているので、答え合わせをしながら観察してみましょう。

西立川口～眺めのテラス
ケヤキ、コナラ、オオシマザクラなどさまざまな種類の木を観察できます。

ゆめひろば
ケヤキ、クヌギ、コナラ、サクラの仲間などの木が植えられています。



公園からのおねがい

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・花畑や花壇、柵で囲った場所は入らずに観察しましょう。
- ・スズメバチに出会ったら、立ち去るまで待ちましょう。



木の“はだ”

図鑑

木の“はだ”はさまざまな模様をしています。
“はだ”ざわりはどうでしょうか？
目でみて、手でふれて観察してみましょう。



木の“はだ”に何かくっついているよ

木の“はだ”を観察していると、いろいろな生きものがみつかることがあります。

着生植物



ノキシノブ
樹皮に付着するシダ植物です。養分を木から奪うことはなく、雨水などを利用して生育しています。

擬態する生きもの



キハダエビグモ
樹皮にそっくりな色や模様で、天敵を欺きます。キハダエビグモ以外にもガの仲間などがみつかります。

樹液に集まる生きもの



ルリタテハ
樹皮の間から樹液がしみ出すと昆虫が食べにきます。コガネムシ、スズメバチの仲間などもみられます。

木を“はだ”でみわけてみよう

木をみつけたらまずは、“はだ”の色や模様を目でみて観察しましょう。次は近寄って手でふれてみましょう。“はだ”のデコボコや樹皮のはがれも観察してみましょう。



- はがれやすい
- まだら模様になる

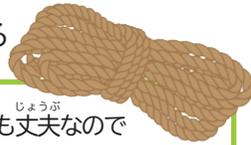
マダラマルハヒ
回ズコガの幼虫



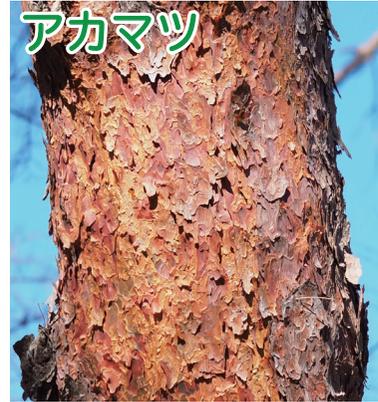
ケヤキの木の下には、はがれた樹皮がよく落ちています。この樹皮を利用するガの幼虫もいます。



- はがれやすい
- まだら模様になる



アキノレの樹皮は、とても丈夫なので縄の材料として使われていました。樹皮がはがれたところはオレンジ色や薄緑色になります。



- 赤い色をしている
- うろこのような形ではがれる

アカマツは樹皮から松脂がしみ出します。松脂は、燃料や滑り止めとして利用されています。



- 赤っぽい茶色をしている
- 縦方向に裂けるようにはがれる

ヒノキの樹皮は、屋根の材料として使われています。水に強く30年ほど持つと言われてしています。



- 縦方向に割れる
- コルク層が発達し、コナラよりデコボコが大きい

クヌギの実



- 縦方向に割れる
- コルク層が発達しており、クヌギよりデコボコが小さい

コナラの実



- 縦方向に少し割れるが、樹皮にはほとんどデコボコがない

シラカシの実



ヒオドシチヨウ

樹液が出る木

クヌギ、コナラ、シラカシの木は、どんぐりがなるシイ・カシの仲間です。これらの木の樹液は、昆虫たちのレストランです。



クワカネバ



- 横方向の縞模様
- 枝の樹皮はツヤツヤしている

サクラの仲間の樹皮は、美しいため工芸に使われます。



茶筒